

生命の尊厳と地球環境蘇生運動に向けて
STSプロジェクト東京支局たより

ハーモニー ウェーブ
Harmony Wave

Vol.40 2018年9月

発刊元: (株)エステーエスプロジェクト 東京支局
〒108-0023 東京都港区芝浦2丁目17-10 新大友ビル6F
TEL:03-6435-3428 FAX:03-6435-3429
ホームページ: <http://www.stspro.com/>



生活水を考える
水道水の汚れ



水道水は一見透明できれいに見える。そこにどのような成分が含まれているか、見た目ではわからない。皆さんは、水道管が汚れていることを想像してみたことがあるだろうか？

先月、ある会員さんから「水の味が落ちた」と電話を受け、蘇生器メンテナン스에伺った。そこはマンションで、配管の元に接続するタイプのSkyl220(蘇生器)を使用している。

中を開けてみると、茶色い錆と黒っぽい油の様なものが混ざり、ドロドロとした汚れがべったりとフィルターに付着していた。約2年半で溜まった汚れを見て「みんなこれを知らずに毎日飲んだりしているのですね」と、驚きとも

に、蘇生器を設置している安心感があると喜ばれていた。フィルターの使用限度を過ぎてしまうと、本体のセラミックスも汚すことになる。フィルター交換の重要性を理解してもらうことができた。



【汚れたフィルター】

そもそも、水道管自体はどのような素材で作られているのだろうか。一昔前までは耐久性のある鉄管が主流だった。こ

れは赤錆の原因となるため、現在は大半の家庭で塩化ビニール系の配管やポリエチレン管が使用されている。

また、水道が普及し始めた明治31年から近年まで、全国的に水道メーター付近に安価で加工のしやすい鉛管が多く使用されていた。この鉛管は漏水が多く、水道水に鉛が溶け出すことによる健康面への害があるとされ、1995年4月以降、全面使用禁止となった。

鉛に代わって塩化ビニール系の配管が使用されていたが、これらの素材にも製造時に安定剤や改質剤として鉛の化合物が使われていたことが分かっている。



【錆の溜まった水道管】

水道水は、浄水場から家庭に配水されるまで、何キロもの配管を通過して行く。その過程で、錆や鉛、水垢などの汚れ、浄水場で使われるポリ塩化アルミニウム、塩素が有機物と反応して発生するトリハロメタン(発がん性物質)などが含まれる。それらは年月が経つにつれて、水道管内にどんどん溜まっていく。ビルやマンションに設置されている貯

水槽においては、水道法に定められた定期的な検査はあるものの、清掃などの管理は所有者に委ねられている。浄水場で水質基準を満たしたとしても、マンションなどの貯水槽、水道管の状況により、蛇口から出てくる水が安全基準を満たしている保証はない。

毎日欠かさず使う水道水。飲み水だけでなく、台所や風呂、すべて肌に触れ、体に取り入れる生命に関わる水だ。水道水の汚れは目に見えないからこそ、そこに意識を持って「どのような水を生活に取り入れるか」が重要になってくる。『安心して飲む水は自分で作る時代』日々の積み重ねが、健康、そして環境へも影響していることを今一度考え直す機会になればと思う。

五輪から考える東京の今

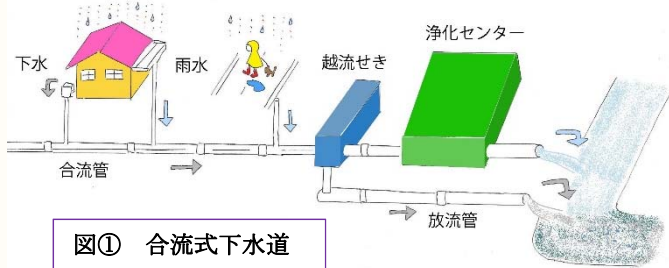


お台場海浜公園

2020年の東京オリンピックのトライアスロン会場に、お台場海浜公園が設定されたことを受け、東京都と大会組織委員会が競技エリア付近の水質改善の実証実験を実施している。期間は7月26日〜9月6日で、費用は2億円を見込まれている。トライアスロンでは、オープンウォータースイムと呼ばれる、海、川、湖などの自然が舞台となり、プールなどの人工施設で行われることは少ない。

◆東京の海について考えてみる。事実、昨夏の水質検査では、国際競技団体が定める基準値より最大で21倍の大腸菌が検出された。海から大腸菌が大量に検出される要因は、下水処理の問題だ。東京23区内のほとんどの地域では、「合流式下水道」(図①参照)となっており、生活排水などの下水と、雨水を同じ配管で下水処理場に送る方式になっている。処理場の能力を超える雨が降ると、雨水と汚濁物(おんくわぶつ)を含んだ下水が未処理のまま河川に放流され、これを「オーバーフロー」といい、東京湾まで流れ込んでしまう。

大会では、その汚水の流入を防止するために、シルトフェンスという一種のカートンのようなものを



図① 合流式下水道

を競技エリアに張ることが計画されている。シルトフェンスは、ポリエステルという材質を使用しているケースが多く、海にとっては異物である。

えない細菌などはどうなのか。また、ポリエステルが海に漂い続けていることに問題はないのか。さらに、重金属やその他の有害物質がイオン化(水に溶ける状態)され海に流れてしまった場合、素人目での判断はとても難しい。必ずしも色や臭いの変化が起こるとは限らないからだ。「泳げる海、お台場」をスローガンに掲げているが、果たして泳げる海というのは、対症的に汚いものに蓋をして、無理やり遊泳可能にすることなのか。それとも小魚も共に泳げる、生きた海に再生させることなのか。何かをはき違えている気がしてならない。

◆シルトフェンスという人間の産物は、かつてアマゾンの生態系を守る運動をしていたSTS企画研究開発室室長が半田代表に言われた言葉を思い起こさせる。「守るという行為で守ることは出来ない。その場所がカプセルで囲まれてでもいない限り、全て循環している」(貢献の形)より抜粋

対症療法のような考えで見栄えを良くしても、それは一時的のぎでしかない。必要なのは、2億円をかけて実験することでも、フェンスを張って基準値以下の数値に喜ぶことでもない。汚水が未処理のまま河川に流されない対策であり、さらに言えば、排水されても環境に負荷を与えない生活へのシフトチェンジだ。23区内にその措置を取るとなれば莫大な費用が必要になってくる。ほとんど不可能といっている。

◆だが、STSには今すぐにも始められることがある。解決する手段が存在する。それが、流れた先を蘇生する力を持つ数々の製品を愛用することであり、家庭からハーモニーウォーターを流すことである。これからの地球には、生命に貢献する製品と共に、生命を最優先して物事を選択していく精神が重要になってくる。今、求められているのは、環境を良くしていくという初めの決断と、継続する勇氣だ!

「オリンピック開催国のその後は地球環境が大きく蘇生する」こんな催しとなり、「オリンピック開催に向けた候補地が殺到する」こんな画を期待して止まない。

2018年9月~2018年10月 セミナー日程 (13:30~16:00)

9/ 2 (日)	東京セミナー	グランパークプラザ田町 3階
9/23 (日)	兵庫セミナー	TKP神戸三宮CC 5階
10/14 (日)	感謝際	秋田キャッスルホテル 4階

・支局では、ハーモニーウォーターのお試し水汲み、学習会を行っています。日時詳細や内容はメールでお知らせしています。

〔編集後記〕

水道管、東京湾のみならず、意識を向ければ、私たちを取り巻く様々なものが言葉無き叫びをあげている。



【支局のかぼちゃの花】